

C LINICAL RESEARCH WARD

外科診療科

医科研において外科が産声を上げたのは昭和32年のことでした。その後、免疫の研究を基にして癌を中心に外科臨床が行われてきました。病院の診断分野にも積極的に携わり、最近では感染免疫内科からの依頼を受けて HIV 感染患者の手術も行っています。当科では臨床に加えて研究にも力を入れています。すばらしい研究ができて医療レベルがいい加減であっては困ります。一流の医療レベルを維持しながら研究を、これが当科のモットーです。

当科のメンバーは現在10人ですが、関連病院で臨床に従事している医局員を合わせると19人になります。外科医が判断力、技術に自信を持ち手術を行えるようになるには10年近くの歳月を要します。しかし医科研のようなところでは、この間に研究へのスタートを切る必要があり、各自がしっかりした心構えを持って努力しなければなりません。

医学において外科の在り方が問われている現在、外科の臨床を行う中で研究のヒントを見つける洞察力を持つことが大切です。当科は腫瘍外科を目指していますが、そのためには Oncologist としての見方、考え方が必要であると思っています。今後、進行乳癌に対する自家末梢血造血幹細胞移植を併用



外科診療科のスタッフ、2階東病棟看護室にて

した細胞移入治療や、進行腎臓癌に対する遺伝子治療などの医科研病院のプロジェクトに協力し携わって行くつもりです。

医科研病院が、プロジェクトの1つである HIV 感染症の治療体制を取ることができた経過をみていますと、医科研の臨床系、基礎系、そして事務系の理解と多大な努力があつて初めて可能になったプロジェクトであるということがわかります。今後も、医科研病院であればこそ行うことができる医療を実施しながら、医科研病院が一体となって進める新たな先端医療の開発の一端を外科も担って行きたいと思っています。

VISITS

学友会セミナー

日時	演者		演題
2月 2日	垣塚彰 博士	京都大学医学部薬理学教室講師	ドミナント変異とその表現型
2月 7日	白子幸男	カリフォルニア工科大学研究員	Sindbis virus 非構造蛋白のプロセッシングと RNA 複製の制御
2月 8日	Yoo-Hun Suh	Dept. Pharmacol. Seoul National Univ. College of Medicine	Molecular Physiology of Alzheimer's Amyloid Precursor Protein and its Metabolites
2月 9日	柚崎通介 博士	Roche Institute Molecular Biology, NJ, U.S.A.	カルシウム・シグナリングと神経機能の発現
2月22日	Daniel Jay 博士	Department of Molecular and Cellular Biology, Harvard University	Molecular dissection of growth cone motility and axon guidance
3月 7日	Dr. K. Muniyappa	Indian Institute of Science	Homologous recombination: RecA and I red b
3月20日	Dr. Napoleon Ferrara	Cardiovascular Research Department, Genentech Inc.	The regulation of vessel growth by VEGF
3月24日	Dr. Bernard Poiesz	Professor, Dept. Intern. Med., SUNY Health Science Center	Characterization of the early events in HIV reverse transcription
3月28日	Dr. Richard Roberts	New England Biolabs Inc. Research Director	酵素と核酸との相互作用の意外性と、それが示唆する今後の分子生物学の展望
4月 3日	Dr. Kevin Moore	DNAX Research Inst.	Interleukin 10 and its receptor
4月 4日	Prof. Walter Doerfler	Institute für Genetik, Universität zu Köln	Integration of Foreign DNA into Established Mammalian Genomes: Mechanism and Consequences
4月13日	Dr. Anne O'Garra	DNAX Research Inst	Regulation of helper T cell differentiation into TH1/TH2 subsets by cytokines
4月21日	松本邦弘 教授	名古屋大学理学部分子生物学科	酵母を用いたシグナル伝達経路の解析
4月21日	上代淑人 教授	東工大生命理工分子生命医科学	細胞内シグナル伝達系について：GTP結合蛋白質の機能を中心として
4月24日	飯利太郎 博士	Dept. Cell Mol. Pharmacol., UCSF	G proteins: Signal Transduction and Disease